

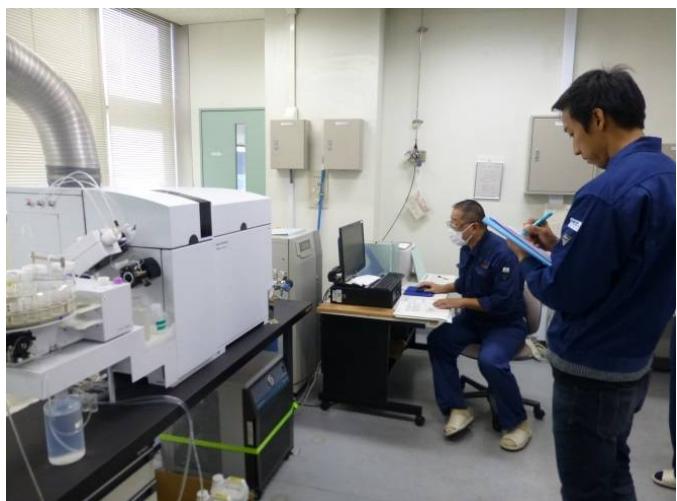
JICA海外技術研修員を受け入れました

JICA（国際協力機構）の海外技術研修として、タイ王国首都圏水道局のバンケン浄水場の研修員が日本の水道を学びに来ています。バンケン浄水場はタイの首都であるバンコクなどへ水を供給している浄水場で東アジア最大級（約440万m³/日）の規模です。

12月18日から1週間という短期間でしたが、今回、当企業団の広域水質管理センターで日本の水道水質管理の実務を学んでいただきました。



取材は研修の4日目に伺いました。この日は、無機物に関する研修でした。左の写真は、COD（Chemical Oxygen Demand）の測定といわれるものです。この検査では、水の汚れ具合を測定することができます。原理はシンプルなのですが、正確な測定には経験と技術が必要です。



続いて、金属分析を行いました。測定機器は精密なものであり、専用の部屋に設置しています。ほこり等にも金属が含まれているため、入室の際には靴を履き替えます。タイの浄水場にはない機器ということで熱心にメモを取りっていました。



最後に、タイと日本の水道の違いについていろいろとお話を伺いました。

日本もタイも浄水の仕組み自体は同じものです。しかし地形や川の違いで抱える課題が異なります。バンケン浄水場では、川の濁度が高い、藻類、河川への海水の流入等が課題となっているそうです。また、今回の研修で驚いたのは、日本の職員が細かく記録をとっていることだそうです。しっかりと記録を残し、過去と同じトラブルに迅速に対処できるようにしていることがすばらしいそうです。タイでは施設が狭く、日本のような測定機器を導入できず検査に時間がかかるため、記録を残すことまで手が回らないそうです。帰国した後も、今回の研修の成果として、記録を残すということを実践していきたいそうです。

また、今回の研修を通じて、広域水質管理センターの職員たちがとても丁寧に説明してくれたことが非常にうれしかったそうです。

今後も日本が培ってきた技術が世界の水道に活かされるよう、国際研修などへも積極的に協力していきます。